

# 君津地域水稲情報 「あぜみち第2報」

平成 26 年 6 月 18 日 君津農業事務所 改良普及課

電話 0438-23-0299 F A X 0438-23-6698

ホームページ <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-kimitsu/>

## ★ 生育は早く、早生品種は幼穂形成期を迎える ★ 「ふさおとめ」「ふさこがね」穂肥は 6 月下旬から

### 1 君津地域の生育概況

移植時期から続く高温多照傾向のため、生育が進んでいます。6月5日頃に梅雨入りした後は、降水量が多く、中干しにくい天候となり、草丈はやや高めに推移しています。

現在の生育状況は、次のとおりです。

- ① 葉令は平年並み～やや早くなっています。草丈はやや高くなっています。
- ② 茎数は「ふさおとめ」「ふさこがね」は目標より多く「コシヒカリ」は目標に達しています。

### 2 生育調査ほの調査結果 (6月16日)

品種	年	田植え日	葉令	草丈(cm)	茎数 (/株)	茎数 (/㎡)	単葉葉色	幼穂形成期 (H26 は予測)
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	<b>26</b>	<b>4/15</b>	<b>11.1</b>	<b>63.7</b>	<b>49.5</b>	<b>743</b>	<b>40.4</b>	<b>6/16</b>
	平年	4/16	10.8	59.1	42.4	632	44.4	6/19
	平年比	-1	+0.3	+4.6	+7.1	+111	-4.0	-3
ふさこがね (君津市)	<b>26</b>	<b>4/17</b>	<b>9.9</b>	<b>55.7</b>	<b>32.8</b>	<b>636</b>	<b>37.3</b>	<b>6/19</b>
	平年	4/19	10.1	43.9	32.5	626	42.6	6/20
	平年比	-2	-0.2	+11.8	+0.3	+10	-5.3	-1
コシヒカリ (君津市)	<b>26</b>	<b>4/18</b>	<b>10.6</b>	<b>59.9</b>	<b>29.9</b>	<b>568</b>	<b>34.9</b>	<b>6/18</b>
	平年	4/20	9.3	48.9	32.6	611	38.2	6/26
	平年比	-2	+1.3	+11.0	-2.7	-43	-3.3	-8
コシヒカリ (一発肥料) (富津市)	<b>26</b>	<b>4/18</b>	<b>10.0</b>	<b>60.4</b>	<b>29.7</b>	<b>576</b>	<b>36.1</b>	<b>6/20</b>
	平年	4/21	9.3	49.8	34.1	599	40.2	6/26
	平年比	-3	+0.7	+10.6	-4.4	-23	-4.1	-6
コシヒカリ (木更津市)	<b>26</b>	<b>4/27</b>	<b>9.8</b>	<b>55.6</b>	<b>24.7</b>	<b>521</b>	<b>39.7</b>	<b>6/22</b>
コシヒカリ (一発肥料) (君津市)	<b>26</b>	<b>5/4</b>	<b>9.2</b>	<b>56.0</b>	<b>24.2</b>	<b>387</b>	<b>38.8</b>	<b>6/24</b>
	昨年	5/2	9.5	44.1	35.4	538	40.3	6/27

※ 幼穂形成期は、幼穂長 1mm となった時で、出穂の 25 日前に当たります。

※ 平年値は過去 5 か年 (2009~2013 年) 平均値。ただし、木更津市のほ場は 26 年から調査を始めたため、25 年及び平年値はなし。また、君津市のコシヒカリ一発肥料のほ場は 25 年から調査を始めたため、平年値はなし。

### 3 これからの管理のポイント

#### ① 品種別の幼穂形成期と穂肥適期及び冷害危険期の予測

品種	植付時期	幼穂形成期予測 ※	穂肥適期の目安	冷害危険期予測
ふさおとめ	4月20日	6月14日	6月21日	6月24日～
ふさこがね	4月20日	6月15日	6月22日	6月25日～
コシヒカリ	4月20日	6月22日	6月29日	7月2日～
	5月1日	6月26日	7月3日	7月6日～

※君津地域内で最も早い予測日を記載

#### ② 「ふさおとめ」「ふさこがね」の穂肥

「ふさおとめ」「ふさこがね」の穂肥の適期は6月下旬になります。下表を参考に、生育が適正範囲内であれば、「ふさおとめ」は幼穂長1mm～10mmの時（幼穂形成期～出穂18日前）、「ふさこがね」は幼穂長10mmの時（出穂18日前）にチッソ成分で3kg/10aを標準に施用します。

生育が過繁茂となっている場合は、「ふさおとめ」では施用時期は遅らせずに、量を減らして施用します。穂肥が遅れると玄米に含まれるタンパク質が増えて食味が悪くなる傾向がありますので、幼穂長を確認して、必ず適期に施用するようにしてください。

なお、「ふさこがね」の穂肥施用時の適正な葉色は他の品種に比べて濃いのが特徴で、カラースケール等で葉色を確認して、適正な葉色であれば穂肥を基準どおりに施用します。

##### 幼穂形成期（出穂25日前・幼穂長1mm）の目標とする水稻の姿

品種	草丈 cm	茎数 本/株 (坪60株植)	茎数 本/m <sup>2</sup>	群落葉色 ※
ふさおとめ	55以下	31～34	570～620	4.0
ふさこがね	60～65以下	25～27	450～500	5.0
コシヒカリ	70以下	23～30	430～560	3.5～4.0

※カラースケール値による。

#### ③ イネクロカメムシに注意！

イネクロカメムシは君津市小系地区～富津市を中心に、近年、発生・被害が増えています。普通のカメムシと違って斑点米を作ることはありませんが、水稻の茎を吸汁します。吸汁されると茎数が減少したり、不稔籾が増加したりするほか、白穂の発生原因にもなります。

雑草地や落葉の下などで越冬した成虫が5月中旬～6月に水田に飛来し、6月下旬には卵を産んで増えます。幼虫が発生する頃には株が大きくなり、動力噴霧器や無人ヘリ等の薬剤がかかりにくくなるため、防除は成虫が飛来する今が効果的です。田の畦際から発生するので、その周辺の株元を良く見回り、発生していたら早めに防除しましょう。

##### 【主な防除薬剤】

スター粒剤、スター豆つぶ、ILサノ粉剤2、ILサノ乳剤、ミチカノ粉剤3DL、ミチカノ乳剤

※ 次号は「6月30日頃」発行予定